

「筑後川水系ダム群連携事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する
関係住民からの意見を聴く場（みやき町会場）」

議 事 録

日 時： 平成 28 年 5 月 28 日（土） 14：00 ～ 15：00

場 所： みやき町コミュニティーセンターこすもす館 2 会会議室

【発表番号 1 番】

本日は、筑後川水系ダム群連携事業の検証に係る検討報告書に対する、関係住民からの意見を聴く場の開催に際し、地元土地改良区として意見を述べさせていただきます。

私、筑後川土地改良区の●●と申します。よろしくお願い致します。

過去 4 回の検証作業が実施され、ダム群連携に替わる様々な代替案が示されましたが、私といたしましては、この事業以外に考えられないことから、流水の正常な機能の維持対策案について意見を述べさせていただきます。

昭和 51 年から開始された筑後川下流土地改良事業実施期間において、昭和 53 年・昭和 57 年・平成 6 年・平成 21 年の異常渇水以外にも、6 月 1 日～10 月 15 日の中で、近年の少雨傾向により 6 月中旬の代掻き、田植え時期、更には 7 月下旬から 8 月上旬にかけての中干し時期には、ほぼ毎年のように農業用水の確保に苦慮しており、水争いはいつ起きてもおかしくない現状であります。

夏期用水期間中、農業用水に全く不安がなかった年は平成 5 年の冷夏の時だけで、日照不足による米生産の大幅な減少により、輸入タイ米を食したことは今でも鮮明に覚えております。

雨は、多くても困るが少なくても非常に困ります。

筑後川における流水の正常な機能の維持ができれば、農業・水道・工業用水の安定確保は勿論のこと、漁業者にあっても安定した収穫が得られるのではないのでしょうか。

今まで複数の代替案を提案されておりますが、ダム群連携事業により筑後川の流水の確保ができれば、瀬ノ下地点毎秒 40 立方メートル、更には異常渇水時の緊急水の補給がスムーズに行くものと考えております。

15 年ほど前だったと思いますが、筑後川工事事務所の●●が私共の事務所に御出にいただいて、小石原川ダム建設と並行してダム群連携事業を検討している話をお聞きして以来、早期完成を熱望してきた者として、7 年前に建設事業のゴーサインが出ていたら、今時分、完成していたのではないのでしょうか。

「コンクリートから人へ」との名言もありましたが、一億二千万人分が生きていくための「水」をどうやって確保するのでしょうか。

安心で安全な農業用水を、両筑、筑後、佐賀の広大な平野に灌漑の義務がある土地改良区を運営する一員としての心から叫びであることを、ご理解願いたいと思ひ

ます。

本日は、このような発言をする機会を得ましたことについて、感謝申し上げますと共に、皆様のご尽力により是非、筑後川水系ダム群連携事業を早急に開始して頂きますようお願い申し上げます。

どうも、ご静聴ありがとうございました。

【発表番号2番】

私はあの佐賀県の土地改良事業推進している団体の●●と申します。

今日はあのこういう場を設けて頂きありがとうございました。

今の、●●さんの方からもございましたけれども、筑後川の農業用水というのは非常に逼迫しております。と、言いますのは、筑後川流域の農業用水というのは、みなさん方ご存じかとは思いますが、これまではですね、有明海のあの満潮時に遡上する河川水を利用するアオ取水というのがこの流域では行われておりました。それが、平成15年にですね、水資源機構、今では水資源機構と言いますが、水資源機構の工事の完成によりまして、大堰の佐賀県側でいいますと大堰の上流の方のですね、右岸側に佐賀揚水機場というのがございまして、そこから佐賀東部導水路で水が導水されております。

あの、先ほどの話を聞かれましたけれども、6月のですね20日ごろに田植えが集中しております。まあ農業の構造も変わってきてましてですね、中流と下流と一体の営農時期になっております。それで筑後川の水が非常にあの、まあ、連続乾田日数が増えてきますと、中流と下流と一斉に農業用水の取水が始まりまして、最下流に位置します福岡・佐賀の筑後川の水を利用している農業者としてはですね、毎年、慢性的な水不足を来しております。まあそういうことで今回のですね、ダム群連携によりまして、小石原川ダム、それから江川・寺内ダムの3ダム連携によりまして、河川の不特定用水と言いますか、これが、確保されることによってですね、あの現在の営農に準備段階として、農家の人は雨が降るかも分からない、まあ降らないかも分からないということで、地域内にありますクリークの水位を田面すれすれまで高めております。事前に筑後川からの水を揚げて貯めている状況です。この事業によりまして、安定的に用水が確保されるということになりますと、そのクリークの水位を計画によりまして1メートル下げようとなっております。圃場整備によりまして佐賀県側の農地というものは、1割がクリークです。ですから大まかに言いますと1メートルの水位を下げると言うことは、100mmの雨をですね一時的に貯めるようになる。そうすると、農業用水だけでなく洪水をですね、湛水被害の防除にもつながります。国土の保全という観点からも、この事業にものすごく期待しております。

そう言うことで、早期の着工して頂きたいと、そして、ダム群連携とですね、一緒になった筑後川の不特定用水の確保をして頂きたいというのが、われわれ下流域で関係している農業団体のですね、切実な願いでございますので、是非とも一日で

も早くですね、着工して頂きたいとふうに思っております。以上です。

【発表番号3番】

突然発表するようになりまして、発表の場を与えて頂きました関係者にお礼申し上げます。

まず、今二人の方がそれぞれご意見を発表されました。私も水に育った旧三根町の出身でございます。現況はですね五ヶ山ダムの開発、30年から成立されるそうです。それから福岡導水路、もちろん佐賀導水路もあります。それぞれの筑後川水系のダム群に対して連携の運用をするということで、農水、それから洪水防止、あるいは環境保全、それぞれの効果があると思います。

実はですね、みやき町の下流にあります井柳川とか、あるいは切通川とか、福岡県の方もあると思いますけど、平成10年北茂安の大堰ですね。筑後川大堰。あれが完成してそれ以後ずっと流水は毎秒40立方メートルと言われましたかね、瀬ノ下で確保してあると思いますけども、そういう下流にある井柳川、切通川、そういう所は大潮の時には有明海からすごい水量が上がってくる訳ですね。そうするとそれに伴う6月から8月までのその大雨、寒水川とかですね、山から大きな雨が流れて来た時にはですね、結局、小河川、井柳川とか切通川、そういうところを流れて来るんだから、有明海の満潮の潮も合流して、とんでもない水害が発生するんですよ。

特に井柳川の場合ですね、泥土もかなり貯まっておりますけども、毎年、年2、3回はですね、水田ですね、あるいは畑に対して、その時期に雨と大潮と重なって、結局、水閘門もありますけども、水閘門も開けることは出来ないという状況でただ単なるその排水所ですね、江見排水所、下田排水所これを機動させる以外無いわけですね。今回も4月の末、27日頃だったかな、大雨と満水の時は三根地区の井柳川、特に越水するんですよ、田畑に。そうするととんでもない被害が出てくる訳ですね。それをずっと繰り返している訳です。私も住民の皆様の訴えを聞いてですね。いろいろな方から聞きました。もちろん筑後川河川事務所にも行きましたけども、とにかくその原因は何かというと、やっぱり筑後大堰のですね、水の制限に対して、その有明海から上ってくる水量、満潮の潮がですね、そこで止められる訳です。そうするとその下の小さな河川は工事があって、昔の河川じゃなくて、曲がりくねった河川じゃなくてまっすぐ出来ているんですね、井柳川とか、あるいは切通川、そうすると潮が筑後大堰で止まるんだから結局横にですね、右左の小河川に流れ込む以外無いわけですね、それで冠水するという事で大変地元の生活者も農業者もそれぞれ困惑しているわけです。是非この点については、なんとか方法がないかということいろいろ話合っておりますけども、やはり水閘門の開閉、それから排水機場の調節、これ以外現在無いんです。ある防衛庁、自衛隊の機械関係の専門家がですね、お見えになって、水門のそれに応じて、最近ではITというのがあから調整できないかというようなお話が聞きました。その点今後検討して頂きたいと思っております。それから泥土、泥土の貯留でものすごい、水をため込むだけの能力が低下し

ているということですね。もちろんその両方から、あぜ道、あるいは道路の高さを上げればいいじゃないかという簡単な問題があります。それをやってみました 10cm、15cm ぐらい、そしたらやっぱりもたないですね、道路のかさ上げするとも、そういうことで、いいことだけでも、それだけのこの水量が出来ればですよ。五ヶ山ダムの完成がある。福岡に流す水が筑後大堰からどのくらいか知りませんが、大都市の 150 万都市の福岡市辺りですね、地域の都市圏の、そういうのに対していくらかその筑後大堰ですね、水量も増加出来ないかということも考えて頂きたいと思います。すみません、ありがとうございました。